

偉

大な郷土の作家をしのび、志を受け継ぐ

尾崎士郎没50周年記念法要と第1回尾崎士郎賞表彰式



尾崎士郎没後50周年の記念法要が2月15日、生誕地である吉良町上横須賀の地藏堂で営まれ、士郎を慕う地元関係者らが郷土の偉人をしのびました。この地藏堂は、尾崎家の広大な敷地の一角に建てられた庵寺で、唯一現在まで残っている建物といわれています。

翌日の16日には第1回尾崎士郎賞の表彰式が文化会館小ホールで行われました。旧吉良町で小・中学生を対象に「尾崎士郎作文賞」として行ってきた作文コンクールを、新たに一般・高校生の部を加えて「尾崎士郎賞」に名称を変更したもので、市制60周年記念事業として広く作品を募集したところ、全国から2,135点の作品が寄せられました。表彰式に続き、士郎の母校である早稲田大学元総長の奥島孝康氏による記念講演が行われ、「わが学生時代と尾崎士郎」をテーマに、尾崎士郎記念館の題字を書いた縁があることや、「人生劇場」の歌が早稲田大学の第2の校歌として今も親しまれていることなどが語られました。早稲田大学応援団も会場に駆けつけ、尾崎士郎賞がさらに発展するようエールが送られました。



第1回尾崎士郎賞の入賞者の皆さん(左)と、記念講演を行った早稲田大学元総長の奥島孝康氏(右)

オ

オリンピックがくれた宝物

一流の選手に学ぶ会



一色中学校の生徒が、スポーツや文化芸術の分野で実績のある一流の指導者から指導を受けることで、部活動に対する心構えや人としての生き方を考える機会とする「一流の指導者に学ぶ会」が2月17日、一色町体育館で行われました。講師は、小学6年生のとき以来3度のオリンピック日本代表選手となった長崎宏子さん。水泳を始めたきっかけから、現在、関わっている水泳教室までの栄光と挫折のエピソードを紹介しました。「高校1年生のとき、金メダル候補として臨んだロサンゼルスオリンピック競泳200m平泳ぎ決勝。残り30mのところまで焦りが生じ、4位となってしまった。泣き続ける私を救ってくれたのは、母の笑顔でした」「4位だったからこそ、今の私がある。4位も悪くない。皆さんも悔いのない人生を送ってください」と生徒たちに語り掛けました。

2/13 萩原小学校二分の一人式

4年生の児童が、それぞれ将来になりたい職業などを力強く発表した後、家族への感謝の手紙を保護者らに手渡しました。



2/22 文化遺産！発見ウォーク



幡豆地区の遺跡を巡るウォーキング。道中、実際に布目瓦を発見するなど、参加者は直接、文化遺産に触れました。

2/28 花の展覧会

市役所市民ロビーで行われ、来場者はプレゼントされた花束を手に、バラやカーネーション、キクなどの花々を鑑賞していました。



3/2 平安の響き2014



文化会館大ホールで上演。厳粛な雰囲気の中、古くから伝わる伝統の音色や、小学生による堂々の舞が披露され、大きな拍手に包まれました。

今月の表紙

25年度市立看護専門学校卒業式が3月4日、同学校で行われ、齋藤校長から卒業生23人が卒業証書を受け取りました。卒業生のお礼の言葉では、卒業生代表の松本佳世さんが在学時の思い出などを述べ、卒業生たちの目からは涙があふれていました。

編集 雑記

今年もまた、桜の季節となりました。昨年、広報担当の仲間入りをして、最初はどうかと思いましたが、仲間に助けられながら、あっという間に1年が過ぎました。この1年で分かったことは、誰もが分かりやすい記事を書くことや、タイムリーな写真を撮ることは並大抵ではないということです。4月からの仕事のことはまだ分かりませんが、もし、引き続きこの担当なら、前進あるのみ（転ばないように）で、臨みたいと思います。（新）

生 命と財産を守る！ 林野火災合同訓練

市消防署員と消防団員との合同による林野火災訓練が2月22日、家武町深篠地内で行われました。訓練には約50人が参加。同町内にある社会福祉法人「くるみ会・里山の家」付近の山林から出火し、建物に向かっ



▲延焼を防ぐ水幕放水訓練

て延焼拡大中という想定で実施されました。消防団員らによる水利確保訓練では、約700m離れた川をせき止めての送水を行い、消火訓練では、駆けつけた消防署員らが迅速な動きで消火活動を行いました。また、延焼防止のための水幕放水訓練や、チェーンソーによる樹木伐採訓練なども実施され、本番さながらの真剣な表情で取り組んでいました。



▲消火訓練に取り組む署員ら

春 の味覚を満喫！ 潮干狩りが解禁

市内にある潮干狩りスポットの先頭を切って、3月1日、衣崎海岸と東はず海岸の潮干狩りが解禁されました。この日が来るのを待ちに待った大勢の人たちが、防寒具に身を包み、手かぎで砂場を掘り起こし、次々とアサリを採っていました。バケツの中は、見る見るうちにアサリでいっぱい。訪れた人たちは、潮干狩りを満喫していました。潮干狩りは、場所によっては8月中旬まで楽しめます。



▲東はず海岸で潮干狩りを楽しむ大勢の人たち